



生活支援の会
ねこのて
理事長 花田 理子さん

性があります。地区に関係なく利用ができますが、生鮮食品の買い物は受け付けておらず、日用雑貨に限ります。

活動で苦勞していること、困っていること

私以外の活動者は普段ひまわり薬局でお仕事をされているのですが、フルタイムやパートなど勤務体系が違うので、利用者が訪れるタイミングによっては人手不足になっってしまうことがあります。あともっと利用者が増えてくれればと思っています。

活動を通じてのよろこび

利用者から「これあるから持っていきな」などの嬉しい声をいただいて、この活動が役に立っているんだと実感しました。たくさんの方が利用してくれば良いのですが、一人でも利用してくれて助かった、ありがとうと言われることが一番嬉しいです。

ねこのての夢

安平町は引越してきて大好きになったまちなので、買い物代行がさらに充実して欲

買い物代行事業
ひまわり薬局に勤めている職員さんから、病院や薬局を利用する高齢者がバスを待つ時間を潰す場所がない、ちょっととした買い物に困っている話を聞き、手伝いをしたいと思ったのがきっかけです。
事業内容としては、1回の利用で基本料金500円。距離や重さで料金が高くなる可能

しいと思っています。他の事業者さんのサービスという選択肢があっても良いかと。やりがいを感じ、無理のない程度に働ける人が活動に参加してくれるのが理想です。

ねこのて連絡先

☎070-1255-3384



コミュニティシンクタンク
いんくるらぼ
代表理事 山村 哲也さん

地域福祉活動を始めた理由

私は、地域福祉について、国や政治頼みをして待つのではなく、なるべく社会保障制度を使わない、地域で地域住民が支え合う地域共生社会の仕組みができると町に住んでいる方々が誰もが幸せになれると思っています。その仕組みが安平町で形になれば全国に発信することができますし、日本の福祉が変わると考えています。安平町を福祉の充実したまちにしていきたい

と思ったのがきっかけです。

農福連携をメイン活動として

町内の基幹産業に農業があり、農家さんのサポートが可能ではないかと考えて取り組みを始めました。町内には社会に関われない方が潜在的にいると思います。今後、取り組みを発信して活動を知ってもらい、社会に関われない方と繋がっていききたいです。

去年は、町内の農家さんや企業、株式会社ダイナックスさんとも連携して仕事をしており、来年度に向けても前向きに検討中です。町内の支援が必要な方と一緒に今も活動していますが、札幌市の就労支援事業所と連携してブドウ畑で仕事をすることもありました。

将来的には、町内で農福連携のチームができれば良いと思います。

活動で苦勞していること、困っていること

今後は、少しの支援があれば社会で働ける人たちが「安心して住める住まい」を作る計画です。これにより、都市

部から安平町に住みたい人が増えれば町の人口も増えていき、産業も活性化していくと考えていますが、設立したばかりの法人で経営的な資源が不足しているので皆様のご協力を得ながら活動していきたいと思っています。

いんくるらぼの夢

3月下旬に安平地区のあびら交流センターで「誰にでも優しいユニバーサルなお店いんくるらぼ」のオープンを目指して準備を進めています。ここは農福連携や町民の困りごとを相談できる窓口、ごども食堂や地域食堂として地域共生社会づくりの拠点としていきます。安平町が教育と福祉が充実しているまちにしていきたいです。



農福連携事業の様子
(いんくるらぼ提供)

いんくるらぼ連絡先
☎090-8272-0382